子どもたちのより良い学びの実現に向けて一緒に考える～学校支援の取組～

福島県特別支援教育センター　教育相談係　指導主事　尾形　真知子

当センターでは、特別な支援を必要とする幼児児童生徒が通う園・学校に対して、要請に応じて相談支援・研修支援を行っています。ケースによって趣旨は異なりますが、今年度、当センターへの来所相談から、園・学校における当該幼児児童生徒への支援の在り方を検討する学校支援につながる機会が多くありました。本稿では、これらのケースを中心に、学校支援に伺う際に担当者が大切にしていること、園・学校の先生方と一緒に考えたポイントについてお伝えします。

学校支援の流れ～園・学校における支援を考える～

ステップ１「気付く」

子どもの行動に気付く。

「なぜこのような行動をするのだろう。」

「どうして出来ないのだろう。」

〈主訴の一例〉

（本人・保護者）課題となる行動の意味や行動への対応等について相談したい。

（園・学校）子どもの行動への対処について相談したい。

園・学校において、子どもの行動そのものへの対応（クールダウン、注意・指導等）をされているケースが多い印象です。

園・学校にわかってほしい（本人・保護者）
一緒に子どものことを考えてほしい（園・学校）

支援要請

ステップ２「探る」

子どもの行動が起こる背景を探る。

「困難さを伝えるサインかもしれない。」

「〇〇が理由かもしれない。」

先生方と、子どもの行動、前後の状況などについて一緒に整理します。
「なぜ・どうして」「〇〇かもしれない」という視点をもつことで、子どもが困っている部分に目を向けることができます。

ステップ３「考える」

子どもの行動が起こる背景・要因に対する支援を考える。

「こうすると分かりやすくなるのではないか。」

「こうするとできるのではないか。」

※可能な範囲で子ども･保護者と支援内容について話し合い、納得の上、行う。

その行動が起きる前の状況、行動につながる子どもの困難さに対する支援を一緒に考えます。

ステップ４「やってみる」

子どもの行動が起こる背景・要因に対する支援を実践・振り返り・改善する。

「わかる・できるようになった。」

「うまくいかないな。どうするといいかな。」

考えた支援がしっくりこないこともあります。実践・振り返り・改善を繰り返し、より良い支援の提供、そして充実した生活・学びを目指します。

学校支援では、先生方が幼児児童生徒に対して「なんとかしたい」と思いを寄せ、「どうしたらいいだろう」と悩んでいることが伝わってきます。学校支援を通じて第三者の視点を取り入れ、一緒に考えることで、先生方が新たな気付きやアイディアを得て、前向きなエネルギーをもって幼児児童生徒とかかわれるよう、今後も努めていきたいと考えます。